

会 議 録

1. 会議名

第4回仙北地域協議会

2. 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成19年度地域枠予算の追加事業について（公開）
- (2) 提案事項の審査について

その他（公開）

- (1) 大仙市東部地区水道計画の概要について
- (2) 地域づくり講座・事例発表の役割分担について
- (3) 仙北地域振興計画案の資料作成について

3. 開催日時

平成20年2月28日（木） 午後7時より

4. 開催場所

仙北庁舎「第1会議室」

5. 傍聴人の数

0人

6. 出席したものの氏名

委 員 : 佐藤力哉、熊谷政子、池田佐喜男、池田武、黒澤三郎、小林千歳、
小松田有佳、小柳都、佐々木忠雄、進藤勇吉、竹村正資、千葉嗣助、
戸澤龍悦、原松男、茂木保治
(委員15名の出席、欠席3名)

仙北総合支所 : 川越支所長、後藤地域振興課長、佐藤建設課長、鈴木農林振興課長、
田口市民課長、小松教育分室長、健康増進センター仙北分室塩谷主幹
地域振興課熊谷参事、同課皆川主幹、同課池田主事

水 道 局 : 田口局長、藤田上水道課長、岩谷簡易水道班参事

7. 発言内容

後藤地域振興課長

【開会】

第4回仙北地域協議会の開会を宣告

会 長

【会長あいさつ】

皆さん、こんばんは。地域協議会も第4回を数えております。今日の協議内容は多岐にわたっておりますので密な審議をしないといけな
いと思います。本日は水道局から田口局長さんと職員の皆さんがいら
しています。その他のところで大仙市東部地区水道計画の概要につい
て説明をしていただきますが、議事に入る前に水道局からお願いする
ことにしています。

川越支所長

【支所長あいさつ】

皆様どうもお疲れ様です。いつも夜遅くなってからの会議で申し訳
ございませんが、与えられた時間を活用しまして十分な協議をしてい
ただきたいと思います。本日は会長さんからもご紹介がありましたと
おり水道局からきていただいており、水道計画についてお話をしてい
ただくことになっておりますので、よろしく申し上げます。

後藤地域振興課長

それでは、議事の進行を会長にお願いします。

会 長

会議録署名委員を指名します。黒澤委員と小林委員にお願いします。
今日は、佐藤委員、進藤（豊）委員、大澤委員から欠席の届けが出
ております。

それでは議事に入る前に、その他（1）大仙市東部地区水道計画の
概要について、水道局から説明をお願いします。

田口水道局長

皆さんお晩でございます。仙北地域協議会の皆さんには本日議事案
件の多い中、水道局の報告案件について特別のお計らいにより時間を
設けていただきましてお礼申し上げます。ご案内のように大仙市東部
地区水道事業のアンケート調査の結果報告とそれを元にした整備計画
についてご報告申し上げます。太田、中仙、仙北の3地域につきまし
ては真木ダムを水源とする水道の整備計画がありましたが、平成17
年に秋田県が真木ダム建設を中止したことに伴い、その代替案の検討
が行われ、水道水源に関しましては玉川の伏流水及び太田地域の地下
水が有望との結論がなされた訳であります。その後、水道整備事業に
関しましては、大仙市で計画することとされた訳ですが、平成18年
度には大仙市全域の水道事業基本構想を立てまして、今年度は具体的
な整備内容を盛り込んだ基本計画について現在詰めの段階に入ってい
るところです。この基本計画の策定にあたりまして、東部3地域の水道
整備計画をどう立てるのかについて、まずは地域の飲料水の状況は
どうなっているのか、また公営水道の必要性、整備した場合の加入の
意向などについて把握するために3地域の公営水道の未整備地区全世

帯のアンケート調査を昨年10月に行ったところでございます。地域の皆様にはアンケートにご協力いただきまして高い回収率になりまして厚くお礼申し上げます。本日は、そのアンケートの集計結果とそれに基づいた必要度の高い地域の整備計画の案を立てましたので、地域協議会委員の皆様にご説明申し上げますのでご理解を賜りますようお願い申し上げます。一応、一通りご説明が終わりましたら、ご質問等お受けしたいと思っております。

なお、水道局からは私の他に藤田上水道課長、簡易水道を担当しております岩谷参事が参っております。

岩谷参事

【大仙市東部地区水道計画の概要について資料により説明】

会 長

ご質問、ご意見のある方。

佐々木委員

いま伺ったのは計画ですが、仙北のうちで加入されている方々の不平不満とかはあるものですか。

田口水道局長

例えば南地区からとかですか。不平不満とかは直接聞いていませんが、むしろ料金はかかりますけれども安心して使えるということで喜ばれていると私共は思っております。

小林委員

家ではタダのような水を使っておりますが、大仙市では家族5人で月どの位の水道料金ですか。

藤田上水道課長

いまの仙北南地区では大曲の玉川の浄水場から飲んでいただいておりますが、基本料金は口径が20ミリで20立方メートルまで使用しますと2800円の水道料金になります。ただ5人ということになると基本料金よりは上回るかと思っております。3人ぐらいで基本料金になるようです。

小林委員

それは水洗トイレを使っていることですか。

藤田上水道課長

大曲市内の例ですので、水洗トイレを使っていることになります。

池田（佐）委員

資料3に仙北東地区の図面が載っていますが、この黒で囲っている地域が該当になるということですか。

岩谷参事

これで確定するというのではなくて、先ほど色分けしました加入率を参考にして、ある程度の事業規模と申しますか給水人口等になる

ようにした案がこの黒枠で囲ったものです。

池田（佐）委員

案ということですが、例えば私達はその中の於園、穂田原という地域ですが、於園、穂田原、上がり場、北川目の4地区合わせて今簡易水道を利用していますが、この黒で囲ったのには3地区が入って1地区が抜けているので、これから具体的にになっていくと、そこら辺は考慮されるということですか。

岩谷参事

そうですね。既存の簡易水道の区域を加味しないで作ったものですので、当然事業実施を検討するときには非常に重要なポイントになるかと思います。

池田（佐）委員

計画の給水人口、現在は920人ということで考えているようですが、これも変更になる可能性があるということですか。

岩谷参事

そうです。

池田（佐）委員

私達の方では6か月、半年で4000円くらいです。アンケート結果にも料金が高いと書かれていますが、その地域からみれば非常に高いということがアンケートに現れていると思います。

茂木委員

要するに総予算額20億円と出ていますが、私は、これでは出来ないと思います。国や県の補助は、どの程度の割合になっていますか。

岩谷参事

簡易水道事業で整理しますと補助の対象になりますが、いろいろ要件がありまして、3分の1とか、事業によっては補助率も変わっております。

茂木委員

大仙市では、どちらの方を向いて、補助率をどの程度という予測を立てていますか。いろいろな資料をみても国や県の補助というのが出ていないのですが。今、農家がこのような状態なものですから、まとまった金を何人かで払っていくというのは非常に大変だろうと思います。また、高齢者も増えてきていますが、後継者は県外に住んでいる状況です。そうした中で工事費をきっちり払わないうち終わったりすれば、そのあたりもどう考えているのかお聞きしたい。

藤田上水道課長

工事費の住民の負担というのは、市道に埋めていく工事に対する負担はありません。ただ、道路に埋めた本管から各家々に繋ぐ部分は個人のものになりますので、それについては個人負担になります。

茂木委員	それについての助成や補助はありますか。
藤田上水道課長	個人の財産になりますので、それについては個人の負担になります。いずれにしても加入率が良くないと事業を実施できませんので、前年度には事業に対する同意でなくて、加入に対する同意を市でもらって整備する区域を決めたいと考えております。
会 長	他にございますか。 ないとすれば、これで説明を終わります。
会 長	それでは改めて議事に入ります。 (1) 平成19年度地域枠予算の追加事業についてです。皆川主幹から説明をお願いします。
皆川主幹	【地域枠予算追加事業について資料により説明】
会 長	このことについて、ご意見のある方おりますか。
戸澤委員	私は大賛成でございます。良い案だと思いますし、協賛で仙北地域民生児童委員協議会も前向きの姿勢でおりますので、やっていただければと思います。
会 長	ほかにごございますか。 なければ承認ということでよろしいでしょうか。
各 委 員	【全員異議なし】
会 長	春休み親子映画まつり事業については了解しました。 次の議事に入ります。(2) 提案事項の審査について、熊谷参事から説明をお願いします。
熊谷参事	各委員からの提案と地域の自治会からの要望をまとめて資料としてありますが、自治会からの要望については総合支所内で対応できるものがほとんどであります。先般、そのための課長等会議を開催し、その対応について検討し、担当課としての見解を記載させていただいておりますので、本日は各委員から提出いただいた提案について、どれを地域協議会として市長に提案するか審査いただきたいと思います。
会 長	いまの説明で、委員からの提案について審査することよろしいですか。

各委員

【全員異議なし】

会長

それでは1番から6番までの提案について審査します。

1番の学童保育について、提案者の小松田委員から説明をお願いします。

小松田委員

私の家は核家族で両親共に働いています。実家も大曲仙北ではないのでまるっきり頼るところがありません。学童保育はとともありがたく活用させていただいています。旧仙北町から大仙市になって対象学年や利用時間に多少変更がありまして、以前より使いにくくなった状況がありました。一番大きな大曲では人数も多く1年から3年までも学童保育は利用できないという話は聞こえてきます。そのため年齢や時間を統一したのではないかなと思います。3年生までの利用となると、いきなり4年生になれば1日一人で留守番できるかというところとしては心配なところですね。平日であれば夕方から親が帰ってくるまでの僅か1時間、2時間ですけれども、夏休み、冬休みとなると朝から1日一人で家に居るので、我家ではお昼の弁当を作ったのを食べて親が来るまで家で待っている状態でしたので、とても心配な部分があります。また、土曜日の利用ですが、仙北町の時代は夕方まで平日と同じようにみていただいてましたが、合併になって午後1時までとなりました。そうすると仕事に出ていった親はお昼には迎えに行けないので利用できない状況の人が増えてしまっているようです。合併したからといって全部統一しなくても、私は出来る場所によっては出来る範囲で対応していただきたいと思います。実際、息子が夏休みのときに相談にあって、ちょうど定員に空きがあったため受入れていただいております。私みたいにずうずうしくお願いできればいいのですが、1年から3年とか、午後1時まで、というように打ち出されてしまうと相談せずにそこであきらめてしまう人も多いのではないかと思います。部署の見解の方には柔軟な対応も可能であるとありますので、柔軟な対応も出来るということ伝えて欲しいと思います。

学童保育が無理であれば公民館を使ってキッズパークの放課後子ども教室の事業で土曜日の午前中開放していただいています。うちも利用しておりますし、子ども達の中でも定着して利用率も多いのではないかと思います。他市町村の話を知ると、学校の空き教室を使ったり、長期休みもその事業で居場所づくりをして、週に3回ぐらい夏休み期間行っていたりします。同じ事業であれば、そういう形でも居場所を作っていただければ親としては安心ですので、提案させていただきました。

会 長

ありがとうございます。市民課長お願いします。

田口市民課長

提案要望に関しての市民課の見解については、記載しているとおりにありますが、簡単に私から説明させていただきます。学童保育につきましても、規則で定員とか、対象児童とか、実施時間等が規定されております。ここにも記載してございますが、個別の事情等については柔軟な対応も可能であると考えております。いろいろな要望が私の課だけでなく本庁の児童家庭課へも要望があるようです。現在、検討中ということですが、特に土曜日の実施時間につきましては拡充の方向で検討していると聞いております。私も学童保育の日誌を月に1回ですが確認していますが、土曜日についてははっきり申しましてゼロか、あっても1人か2人という状況です。で、私も何故だろうという疑問は持っておりました。利用者がなければ逆にやめるというのも1つの選択肢な訳ですが、もしかして原因は午後1時までしか預けることが出来ないからそんな中途半端な時間であれば、子どもさんにがんばって家にいてもらっているのか、それとも親御さんが家にいるからなのか、原因を突き止めたいと思っておりました。いずれ土曜日については、本庁のほうでも出来る方向で考えているということですが、

これから小学校の高学年の件につきましては、定員が30名ということですが、現在加入している方は32名となっております。希望者が多いと云うことになれば、現在の新しい剣道場がいいのか、もし利用者が多いとすれば、他の場所、増設等も必要でないかなどのいろいろな課題も出てまいりますので、これについては、改めて本庁と協議しながら検討させていただきたいと思っております。

会 長

ありがとうございました。続いて小松分室長からお願いします。

小松分室長

教育委員会の分室として見解を申し上げます。先ほども申されましたとおり、キッズパークを毎週土曜日、午前9時から12時までやっています。ここにも記載されておりますが、文科省の補助事業で窓口が市教育委員会の生涯学習課となっており、分室は生涯学習課の委託を受けて実施しております。この教室の開催に当たっては、安全管理員の常駐が義務づけられておりますので、その予算そのものが殆ど人件費でございます。さらに前年度より20年度の予算が減額されている状況にあります。そのようなことから通常の学習は出来るけれども、夏休み等の休みには今のところ対応できない状況ですので、よろしくお願いします。

会 長

何かご意見ある方。

小松田委員	放課後子ども教室の予算が減っている話は聞いていますが、補助については1つのキッズパーク毎にあるのか、大仙市1本になっていてそれを分けているのですか。
小松分室長	旧大曲市と仙北の2つ地区で今実施しています。金額にして約300万円ぐらいの予算がきております。そのうち委託料としてあくまでも内示の段階ですが今回は80万円ということになっています。
小松田委員	この見解の中に児童館はないけれども地域の会館を使ってとありますが、実際的には難しいのではないかなと思います。
市民課長	この提案内容に児童館という言葉が出てきましたので、確かに児童館はありませんが、箱的なものが必要だという考えに立つならば、こういう方法もあるのではないかとということで、書かせていただきました。
千葉委員	県から老人クラブの方に盛んとこのことがきています。地域の会館を使っておじいさん、おばあさんと子ども達が一緒に交流できるという次元での指導です。ところが、教育委員会の下の方に回答がありますように、事故が起きたときの責任の問題、安全管理の問題が私共の段階で消化できないところがあります。各地域の会館を開放してやりなさいとはしますが、そこらへんは課題として残っていて、なかなか手をかけられないでいます。
小林委員	市に提案するときに諮ってもらいたいことがあります。地域で子どもを育てるといふ社会傾向にある中で、民間と官が一緒になってできることはないか、アンケートを採ることは出来ないでしょうか。
会 長	市と企業が連携して託児所を設けることだと思いますが、企業でいえば社員に対しての託児所となるでしょうから一般の無関係の方をむかえるかは企業の考え方だろうと思います。
熊谷副会長	私は、取りあげてもいいことだと思います。
会 長	それでは今回は直接関連してということで追加してあげたいと思います。 この学童保育について市に提言することによろしいでしょうか。
各 委 員	【全員異議なし】

会 長

次に、進藤委員から部落会の組織についての提案があります。

進藤（勇）委員

この前の協議会の中で部落の方へ地域枠の予算に関する要望がなかったということでしたので、この地域では事業が完備しているから何も要望がないのか、あるいは市の行政に無関心のためにそうなったのか、心配しておりましたが、今日の協議事項の中に沢山出てきましたので喜んでおります。このことについては、少し昔のことになります。18年6月13日の第1回地域協議会の中で問題提起として資料が出されております。それは地域協議会として審議する問題点、市民の皆さんがどういう要望があるのか、それを聴き取る組織表が出されておりました。そのときには協議して結論がないまま今日に至っております。地域協議会の議題になるのは今は自治会からの要望が主になってきております。要望の出し方を組織化して、協議会の委員とも繋がりを持ちながら市に対する要望、あるいは不満とかを受け付ける機関あるいは組織としてあるべきでないかと考えておりました。それがコミュニティの方がいいのか、私も判りませんが、いずれ自治会、NPOとか、ボランティア、企業とか団体等の集まりで協議してもらって、それと地域協議会が繋がっておれば、いろいろと問題の処理にあたってスムーズに行くのではないかとということです。何も地域協議会の下部機関とかという意味ではなくて、是非市民の声を聞く組織が欲しいものだということです。

会 長

それでは熊谷参事からお願いします。

熊谷参事

この件につきましては、何回も話題になりました。見解にも書いてありますが、最初に自治会の会長さん達に集まってもらい説明した折に、我々は地域協議会の下部組織ではないとの話があり躊躇しておった関係もあります。今回このように提案されておりますので、考え方としては市が行っている事業の説明という形で各自治会の課長さん達に判っていただきたいとか、また各自治会の意見交換の場という形とか、自治会と市の意見交換の場とするというような感じの組織づくりということだとすれば同意を得られるのではないかと考えております。今後、自治会の会長さんにするか、部落の代表にするか、また別の形で選んでやっていったらいいのか問題もありますが、いずれにしろ進藤委員からお話がありました形で来年度から進めて参りたいと考えております。

会 長

各地域からの意見としては7番以降結構出ていますので、大分前向きな自治会が増えてきたと感じられます。いまま地域づくり講座を開いている中で今後各地域をピックアップしていけば次第に関心が深ま

	<p>るのではないかと思います。</p>
千葉委員	<p>地域協議会の任務は地域づくり・まちづくりが基本な訳でして、そういう意味で事務局がもっと各自治会を説得して欲しいと思っています。</p>
熊谷参事	<p>地域の事情では会長が1年ごとに代わるということがあります。最初に自治会連合会のような組織を作ろうとした流れは、自治会が率先してやっていただきたいとの考えでした。その中で市が協力できる部分については支援していくと説明したわけですが、やはり1年交代の会長もいるわけで率先して自治会をまとめるまでには熟成していない状態だということです。その関係で下部組織という言葉が出てきたのではないかなと思われませんが、今後地域協議会の委員の皆さんと十分協議していただきまして早い機会に組織づくりについて進めてまいります。</p>
進藤（勇）委員	<p>自治会だけの連合ではなくてNPOとかボランティアとかという方々からも入ってもらった方がより良い意見が出されると思います。</p>
会 長	<p>地域からどういうふうに意見を吸い上げるかは、基本的で重要なことだと思います。</p>
戸澤委員	<p>自治会によっては全然判らないところもあるかと思われま。会長に通知が来たけれども、どういうことなのか判らないということがあります。それで、この資料を自治会に持って行って見せようかと思っています。これが参考になれば何か芽生えがあるのではないかと思います。</p>
会 長	<p>他にご意見のある方。ないとすれば、これは地域内の事項ですので今後協議しながら検討していくということで、よろしいでしょうか。</p>
各 委 員	<p>【全員異議なし】</p>
会 長	<p>次は、私からのですが、毎年2月の第2土曜日あたりは小正月行事ということで、特に高梨地区では各部落あるいは支部単位で天筆などをやっています。こうした伝統行事への参加者は、若い人達が少なく雪を積み上げるのに高齢者しか参加しない傾向がみられるので何とか維持していくようなことは出来ないか提案してみました。また同時に横堀では鹿島様を作っているところもあり、地域ではいろいろ貴重なものがあると思うので、皆さん各地区の代表ですので、そういうもの</p>

があれば提言いただいて絶えないようにしていくべきでないかということ
ことで提案しました。

小松分室長

最初に補助金について説明させていただきます。昨年10月に大仙市補助金審査委員会が開かれております。合併時にそれまでの市町村の補助金で合併した市に引継がれている事業及び用途について大幅な見直しがなされております。その中で地域や自治会を対象とした補助金については、補助金に依存することなく、例えば可能であれば隣接する自治会と合同で開催する、規模を縮小するなど創意工夫をもって運営に当たるなどの提言がなされており、補助金交付に対して厳しい状況にあります。

それから2つ目の人材育成についてですが、ご提案のとおり、少子高齢化に伴い、冬の行事に限らず、地域の伝統行事は縮小化されて来ているのが現状であります。古くから伝承されてきた伝統行事を後世に継承していくため、仙北分室では、仙北地域生涯学習人材銀行に人材を登録してもらい、地域によっては風習、風俗、習慣など多少の相違点はあるものの、基本的な事柄について次代への指導が出来る人材の育成を養成していきたいと考えております。

会 長

ありがとうございました。他にご意見ございますか。

佐々木委員

大変良い提案だと思います。いわゆる鹿島様では払田の鳥居をくぐったところにもあったわけですが今はなくなっています。上横堀には鹿島様がありますが、こうしたものを残していくためには、この提案のとおりだなと感じます。

熊谷副会長

意見としては、私も賛成です。ただ、そのことがイコール補助金をいただくという発想は、この時代少し無理があると思います。天筆そのものは、この地域では珍しいものではなく、その地域内のやり方で行っていると思います。

会 長

他にご意見がなければ、仙北分室では仙北地域生涯学習人材銀行というものがあって対応されているので、今後この地域で廃れるような消えていくような伝統行事とか製作物とかの技術を忘れないように、なくさないようにしていかなければと思います。この件については、地域でもう少し調査してみたいと思います。

会 長

次は、農業政策の件です。皆さんに都道府県人口推移の資料が渡っていると思います。この数字をみますと人口増と減の県が非常に顕著です。平成17年では全人口の47.9%が埼玉、千葉、東京、神奈

川、愛知、大阪、兵庫、福岡に住んでいます。秋田は昭和35年に1,335,580人をピークに激減しており現在は1,118,178人だそうです。1人あたり面積では秋田県は北海道、岩手に次いで第3位で縦横101m四方に1人占有するくらいの面積となっています。人口が減っていくと反対に一人あたり面積が増えていくことになるので、この面積が今後のキーワードになるのではないかと、資料を揚げさせていただきました。という訳で農業政策について書かせていただきました。

鈴木農林振興課長

大変グローバルなご指摘であります。自給率30%のデータについてはカロリーベースでは現在39%で推移しているかと認識しており、食糧自給率は何を対象にするかで様々な自給率データがあります。最近の中国産野菜等の問題により消費者が国内産に目を向けてくれたらと思っております。

特区を作り、農地の宅地化等を規制することについては、当地域は全域農業振興地域であり、そのなかの9割方が農用地区域で、合併後は国営土地改良事業の網係り（いわゆる市長策定の27号計画）です。従って転用そのものが難しい状況にあり、「特区」の必要性は如何かと思われまます。

減反政策の廃止については、米の需給バランスの整合性あるいはよほどの災害等で収穫皆無でなければ続けざるを得ません。各種手当についてはバラ蒔きの感が否めませんが、現在の農地水関係、緊急一時金（未達成への転作誘導に国費500億円を補正）が該当すると思われまます。10年後の消費量を想定すれば100万tも減になると見込まれております。「米」消費量の手法が先決問題と感じております。

田園計画については、現状では米産地としての地位確保をしていますが、全国的に米の過剰基調等による米価低迷、担い手不足、農家の高齢化が進行中です。これには水田大区画化及び汎用化等（仙北地域は8割方この基盤が完了に近い。）集落営農の組織化が急務です。市では「大仙市総合計画」を策定し、そのもとに「田園環境整備MP」が制定され、どういう状況に今後向けるか「大仙市農業振興計画」をもとに発展をめざすこととしています。

池田（武）委員

平成19年度の米の生産は日本で825万トンだそうです。そのなかで11万トンの持ち越しがあるので、去年在庫で抱えた量が34万トン、そのままいくとまた米価に支障があるというので去年の暮れに政府は市場隔離し12月27日に1300円上げましたが、米価は依然として低迷の一途だわけです。昔、米を一番食べたときは一人あたり120キロ約2俵食べたそうです。しかし今は65キロから72キロ1俵ちょっとしか食べないそうです。朝昼晩と米を食べる世代と

いうのは年と共に減っていくことを鑑みれば、さっき課長の説明で10年後は100万トンは減るだろうというのは、ある学者によれば今800万トンの市場で推移しているが500万トンぐらいでいいのではないかということも言っています。そんな訳で米の事情は非常に大変だということです。私達が一番心配なのはあちこちに耕作放棄地とか、田を維持していけなくなるのではないかということです。自分で田んぼをやるのも大変ですが、耕起、代掻き、田植え、稲刈りの大きい作業を委託している人は、おそらく赤字だと思います。農外収入を得て、それを維持していくのであればいいのですが、収入が得られないのであれば掛けていられないということになってしまいます。今そうしたことが怪訝され恐ろしいなと思っています。これを何とかするかいえば、先ほど課長が言ったように集落営農とかでないで維持できないだろうと感じています。

会 長

この件については、少し話題が大きすぎるので別の機会とします。次の町内観光の充実については、この地域には名所旧跡があるということで他の地域との連携とか、あるいはいろいろな観光施設を結ぶようなツアーバスとかの企画があってもいいのではないかということです。観光案内人や史跡案内人等のボランティアを維持してもらいたいということで提案したものです。

熊谷参事

大仙市としても仙北地域としても象徴的文化財である「払田の柵跡」の環境整備を進めているところです。長年において払田地域の女性有志により地域観光のアピールのため売店等の運営に多大な協力をいただいていたものです。市としても払田柵の景観を考えた場合、現在あるガイドランスへの増設を検討しているところです。

現在使用されているプレハブについては、雨漏りなどがみられることから、仙北地域の観光アピールの観点から地域協議会で検討をしていただきたいと思っております。また、通常の運営費については、地域の皆様方の協力をお願いするとともに、仙北地域での広域的な事業に対する事業費については、今後検討していくことになると考えております。

小林委員

PRが地味なので、もう少し派手に宣伝してもいいかと思えます。今PRにお金を掛けるとしたらお笑いに掛けるのがブームなので、そうした話題性を作るとかして集客するような宣伝が出来ないかと思っています。そうすることによって仙北のブランドにつながればいいかなと考えます。

会 長

これは市長への提言としては却下ということでお願いします。

千葉委員

次に、払田柵跡の売店についてお願いします。

この問題については、これまでも断片的にお話ししてきましたので、どういう状態かは皆さんご承知のことと思います。

現在の売店は、史跡の里づくり事業の進展に伴い、訪れる人も多くなったことから、旧仙北町の指導助言を得て、払田地域の女性有志が主体となって開店したものです。町補助金により運営しておりましたが、大仙市となってからは会員が自主運営をしています。

当初は、観光を主とした売店という感じでしたが、最近では地産の野菜なども取扱うようになっており、道の駅的な関連で県の機関にも登録されております。従って、保健所から衛生管理の検査も入ってきています。店舗は、プレハブの仮設のまま狭隘で雨もりもするようになっていまして大変難儀をしています。

会 長

熊谷参事からお願いします。

熊谷参事

私共の考えでは、観光という中で店舗を開設しているという考え方をしておりました。いま、それは特産物の販売だとするならば、また代わった考え方をしなければならないと思いました。観光PRのために地元の方々が協力していただいているとすれば、いま雨漏りしているその部分については地域協議会の中で検討して修繕をするかということになるかと思えます。それからもう1つ、先ほど話がありました増築の件ですが、去年文化財保護課で当初の予算要求を行ったそうです。結果として財政厳しい中ですので予算がつかなかったということなのですが、大仙市の実施計画では増築については載っているということですので、なるべく早い機会に増築をお願いするようになるのではないかと思います。

会 長

継続して地域協議会からもガイダンスの増設等も含めて提言したらどうでしょうか。

池田委員

前回の協議会でも話題になりましたが、具体化して今回出てきた訳ですが、これは非常に必要なことだと思います。売店が現在のガイダンスの所に増設になるのであれば観光ガイドの控え所も含めてお願いできればと思います。

茂木委員

あそこに建物を増築しても文科省からの問題はありませんか。

後藤地域振興課長

ガイダンスが建っているところは、柵の外になっています。柵の内側は難しいですが、柵の外であれば景観さえ調和がとれれば大丈夫か

と思われます。

会 長 これは提言としてもよろしいですね。いかがですか皆さん。

各 委 員 【全員異議なし】

会 長 雨漏りについては、地域枠予算で緊急に対応したらと今思ったのですが、どうですか。

千葉委員 もしお願いできるのであれば修繕してもらいたいと思います。

会 長 皆さん、どうですか。

各 委 員 【全員異議なし】

会 長 それでは見積の方を担当にお願いします。
次に、7番以降の自治会からの要望については、さきに熊谷参事からも説明がありましたが、支所で対応できるということなのであえて審議はいたしません、よろしいですか。

各 委 員 【全員異議なし】

会 長 これで議事を閉じます。
次に、その他の（2）地域づくり講座・事例発表の役割分担について皆川主幹からお願いします。

皆川主幹 来週7日金曜日に第5回目のワークショップがありますのでよろしくお願いします。今日現在で発表者の3名の方とは1回目の打合せは終了しております。この地域づくり講座の主催が仙北地域協議会となっておりますので、会長のあいさつのほか、司会者も委員の方をお願いしたいということです。

会 長 司会をどなたにお願いしたらよろしいでしょうか。

池田（佐）委員 熊谷副会長にお願いしたいと思います。

会 長 それでは熊谷副会長にお願いします。
それでは（3）仙北地域振興計画案の資料作成について説明をお願いします。

皆川主幹

前回の地域協議会で熊谷参事から説明させていただきましたが、総合政策課では各地域毎に振興計画を作成してほしいとのことです。そのための作成資料を作ってみました。中身は市の基本計画を台本にして仙北の取組む事項を委員の皆さんから自分なりの発想でまず列記していただきたいというお願いです。そのあとそれぞれの事項について取りまとめして協議をいただき計画書にしていきたいということです。作業の目処としては今年の10月頃までとしたいと思っております。

会 長

いま説明がありましたが、資料自体が大分厚いので、定例の地域協議会以外でも検討する機会を設けないとできないのではないかと思います。各自、帰ってから気づいたことをメモしておいて欲しいと思います。作業日程としては、10月まで検討して、来年1月頃までに市長へ提言できるように予定を立てたいと思います。

川越支所長

この振興計画の作成のため付箋を貼る心の準備をしていただきたいということ、来年度で最後の任期になりますので、このメンバーで提案していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

会 長

他にございませんか。

なければ、これをもちまして第4回仙北地域協議会を閉じます。

【10時00分閉会】

この会議録の記載が真正であることを保証するためここに署名する。

仙北地域協議会署名委員

仙北地域協議会署名委員
